

資料 2 ロジックモデルの作成・点検について

2023年10月11日

目次

1. ロジックモデルの作成・点検方法について	3
------------------------	---

2. ロジックモデルの点検結果について	11
---------------------	----

1. ロジックモデルの作成・点検方法について

厚生労働省のEBPMの実践では、EBPM実践対象事業、重点フォローアップ事業、効果検証対象事業を設定しており、それぞれの概要は以下のとおり

厚生労働省の令和5年度EBPMの実践関連事業の種類

種類	選定の考え方	内容	選定期間
EBPM実践対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「厚生労働省における令和5年度の実践方針」の選定基準と除外基準によって選出された事業 ■ 基準に該当する事業はすべて対象 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロジックモデルの作成と活用 ■ 政策立案・評価担当参事官室（以下「政評室」という。）と委託業者（※）が協力してロジックモデルに対して点検 ■ 点検結果を受け、担当課室はロジックモデルをブラッシュアップ 	令和5年5月以降
重点フォローアップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ EBPM実践対象事業の中から、「重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業について」（令和5年度第1回厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会 資料3）に沿って選定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当課室へのヒアリングを実施し、ロジックモデルの記載内容、エビデンスの記載内容、効果検証に関してEBPM事務局からコメント送付 ■ 半期に1度、政評室が詳細なフォローアップを実施（令和3年度、令和4年度に選定された事業についてはフォローアップ継続中） 	令和5年9月以降
効果検証対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重点フォローアップ事業の中から、データの活用可能性や事業の展開可能性等を鑑みて選定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5年度にリサーチデザインを作成し、令和6年度に事業の実施、令和7年度に効果検証を行う想定 	令和5年12月以降

※委託業者：令和元年度～令和2年度はみずほ情報総研（株）（現 みずほリサーチ＆テクノロジーズ（株））
 令和3年度は三菱UFリサーチ＆コンサルティング（株）
 令和4年度及び令和5年度はデロイトトーマツコンサルティング合同会社

令和4年度有識者検証会における検証結果取りまとめの指摘事項（今後の課題）を踏まえ、今年度も引き続きEBPMの実践の取組を継続する

厚生労働省における令和5年度の取組方針

厚生労働省における令和5年度の取組方針

各種政策プロセス（政策の立案・評価・見直し）においてEBPMを実践し、より効果的な政策の立案・改善に努める。特に、**予算事業については行政事業レビューシート及びロジックモデルを活用**する。

○ 行政事業レビューシートを活用したEBPMの実践を行う。

- ・ **試行版レビューシート、重点フォローアップ対象事業等について、レビューシート全体の品質管理**を行い、令和4年秋のレビュー等から得られた示唆、問題意識に基づく「改善に向けた視点」等を参考としつつ、改善を図る。
- ・ 行政事業レビューの中から、優良事業改善事例を選定・表彰する。
- ・ 上記の取組について、EBPM推進委員会に報告する。

○ 行政事業レビュー以外の政策プロセス（規制、税制改正プロセス等）についても、行革事務局の取組方針に沿って対応する。

○ **令和6年度概算要求プロセスにおいて**、レビューシートを活用するとともに、より発展的なEBPMの実践を行うため、**①新規事業、②モデル事業、③大幅見直し事業**のうち、一定の選定基準（※）に該当する事業（ただし、除外基準に該当する事業を除く。）、**④部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、新規事業（新規事業がない場合は既存事業）のうち最も要求額が大きい事業**について、**ロジックモデルを作成し、活用**する。このうち一部を公表。

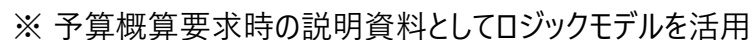
○ 過年度のEBPM実践事業については、ロジックモデル等の内容を更新するなどして取組を継続する。

※ 一定の選定基準（今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定）

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業 ただし、過年度にEBPMの実践対象となった事業を除く。
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業（新規事業がない場合は③以外の既存事業）のうち、最も要求額が大きい事業（部局単位） なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和6年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践事業とする。

E B P M実践対象事業のロジックモデルの作成・点検・活用フロー



今年度のロジックモデル様式①

(出所)「令和5年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

ロジックモデル2シート目では、1シート目に記入した内容の論理展開の妥当性や課題解決の手段としての当該事業の妥当性、効果検証方法を記入する

今年度のロジックモデル様式②

ロジックの確認 ①		2シート目																					
【論理展開の妥当性の確認】																							
インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か、以下の確認項目に従ってチェックすること。																							
✓	確認項目	留意点																					
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。																					
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。																					
ロジックの確認 ②		効果検証方法																					
【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】		1 効果検証に当たっての項目整理																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>P：事業の対象</th> <th>I：事業内容</th> <th>C：比較対象</th> <th>O：アウトカム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		P：事業の対象	I：事業内容	C：比較対象	O：アウトカム																
P：事業の対象	I：事業内容	C：比較対象	O：アウトカム																				
		2 効果検証の分析手法等																					
EBPM取組体制		役職	氏名																				
(課室長クラスの方も含めること)																							
※別途案内するEBPM実践担当者研修(必須研修)の受講対象者に該当																							

(出所)「令和5年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

ロジックモデル3シート目では、1シート目で設定した指標（アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム）の目標水準及び目標達成時期の設定理由や調査名等を記入する

今年度のロジックモデル様式③

【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】				3シート目
指標名	目標値（水準）の設定理由	目標達成時期の設定理由	設定した指標を算出する調査名等	
アウトプット①				
アウトプット②				
アウトプット③				
アウトプット④				
アウトプット⑤				
アウトプット⑥				
短期アウトカム①				
短期アウトカム②				
短期アウトカム③				
短期アウトカム④				
短期アウトカム⑤				
短期アウトカム⑥				
長期アウトカム①				
長期アウトカム②				
長期アウトカム③				

（出所）「令和5年ロジックモデル様式」（厚生労働省作成）

「ロジックモデル点検結果コメントシート」（参考 2）に基づき、特に以下の観点に着目し、ロジックモデルの点検を実施

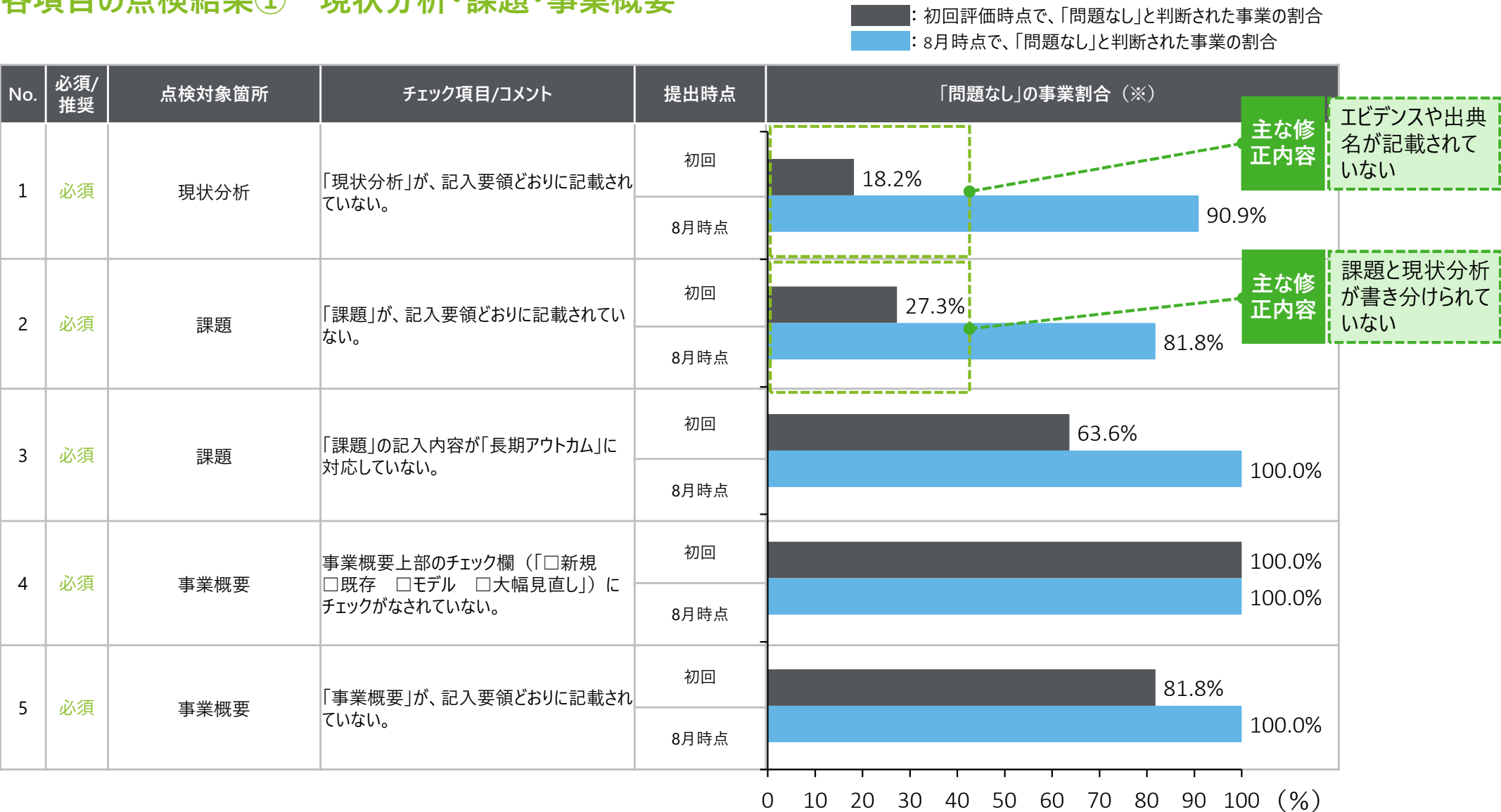
ロジックモデル点検の主な観点

項目		主な点検内容
1 シート目	現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エビデンス（統計等データや研究成果）やデータ出典を示しながら記入されているか ✓ 現状分析と課題の書き分けがされているか
	事業概要・アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業概要とアクティビティの内容が一貫しているか ✓ アクティビティは実施項目別に細分化・具体化されているか
	アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アクティビティに応じたアウトプットが記入されているか
	アウトカム（短期・長期）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業の期待される成果として、定量的な指標が可能な範囲で設定されているか ✓ 目標達成時期が設定されているか
2 シート目	ロジックの確認①	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 要素項目間（アクティビティ・アウトプット・アウトカム）の流れに論理的整合性が成立しているか ✓ 短期アウトカムと長期アウトカム間で飛躍がないか
	ロジックの確認②	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該事業を行うことで課題が解決できることをエビデンス（統計等データや研究成果）を用いて記入されているか ✓ 参照しているエビデンスが妥当か
	効果検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PICOが適切に設定されているか ✓ 比較対象の設定（例：実施地域と未実施地域）が妥当か ✓ 分析に必要なデータの収集方法が事前に検討されているか
3 シート目	指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標の設定理由ではなく、指標の目標水準の設定理由（具体的な数値の根拠）が記入されているか ✓ 目標達成時期の設定理由が妥当か
	指標を算出する調査名等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定量的な指標を設定している場合、指標の算出に用いる調査名等が適切に記入されているか

2. ロジックモデルの点検結果について

現状分析・課題・事業概要は、事務局の点検を経て、約8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。現状分析・課題は、エビデンスの不備や課題と現状分析の書き分けが主な修正内容であった

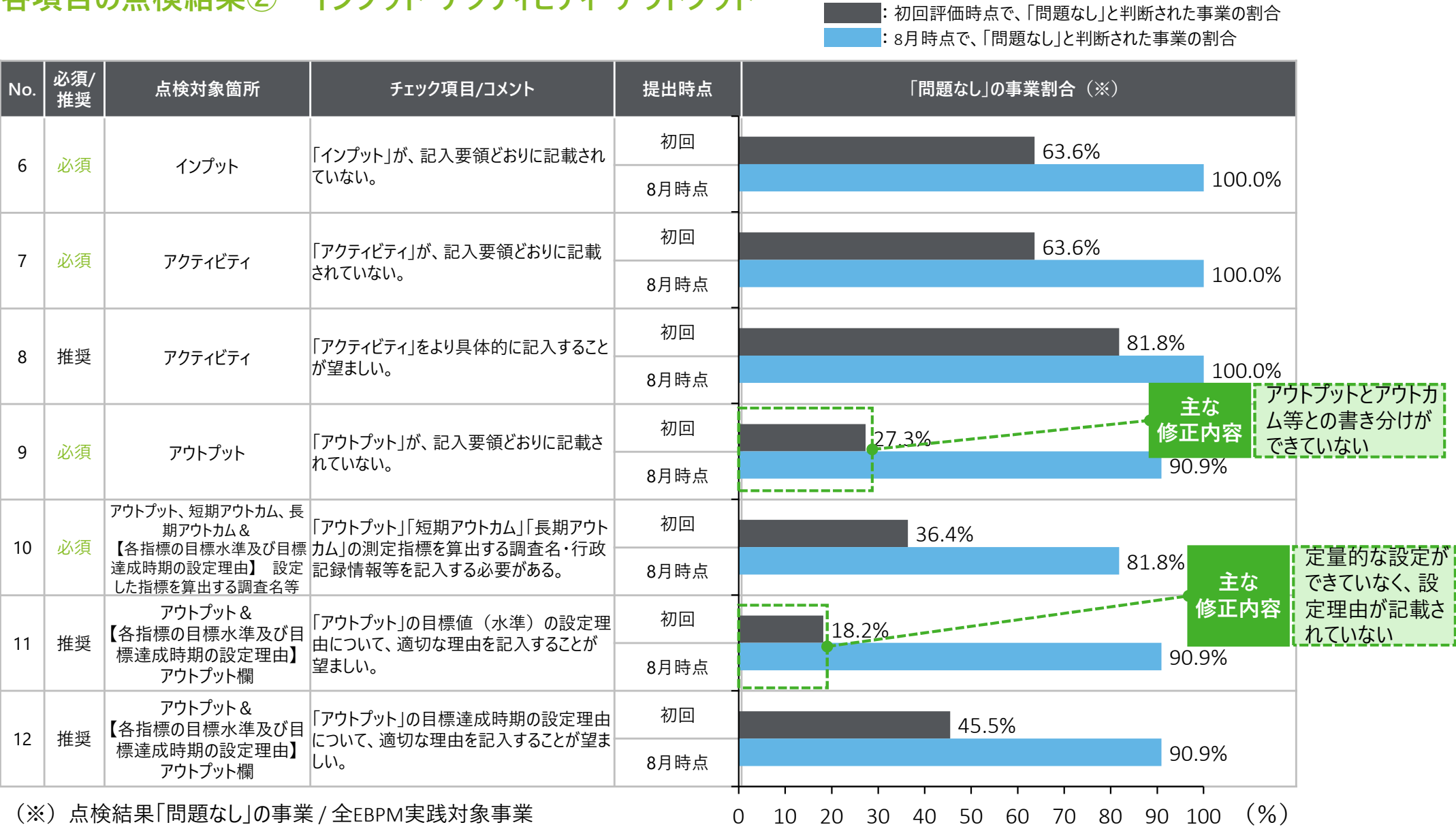
各項目の点検結果① 現状分析・課題・事業概要



（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

インプット・アクティビティ・アウトプットは、事務局の点検を経て、8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。アウトプットは、アクティビティとの不整合や目標設定理由が記載されていない等が主な修正内容であった

各項目の点検結果② インプット・アクティビティ・アウトプット



短期アウトカムは、事務局の点検を経て、約8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。長期アウトカムは目標設定理由が記載されていない事業が多く見受けられた

各項目の点検結果③ 短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト

初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合

8月時点で、「問題なし」と判断された事業の割合

No.	必須/推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の事業割合（※）	
13	必須	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	45.5%	
				8月時点	90.9%	
14	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	63.6%	
				8月時点	81.8%	
15	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	63.6%	
				8月時点	90.9%	
16	必須	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	45.5%	
				8月時点	100.0%	
17	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	45.5%	
				8月時点	90.9%	
18	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	27.3%	<div> <div>主な修正内容</div> <div>目標設定理由が記載されていない</div> </div>
				8月時点	54.5%	
19	必須	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	100.0%	
				8月時点	100.0%	

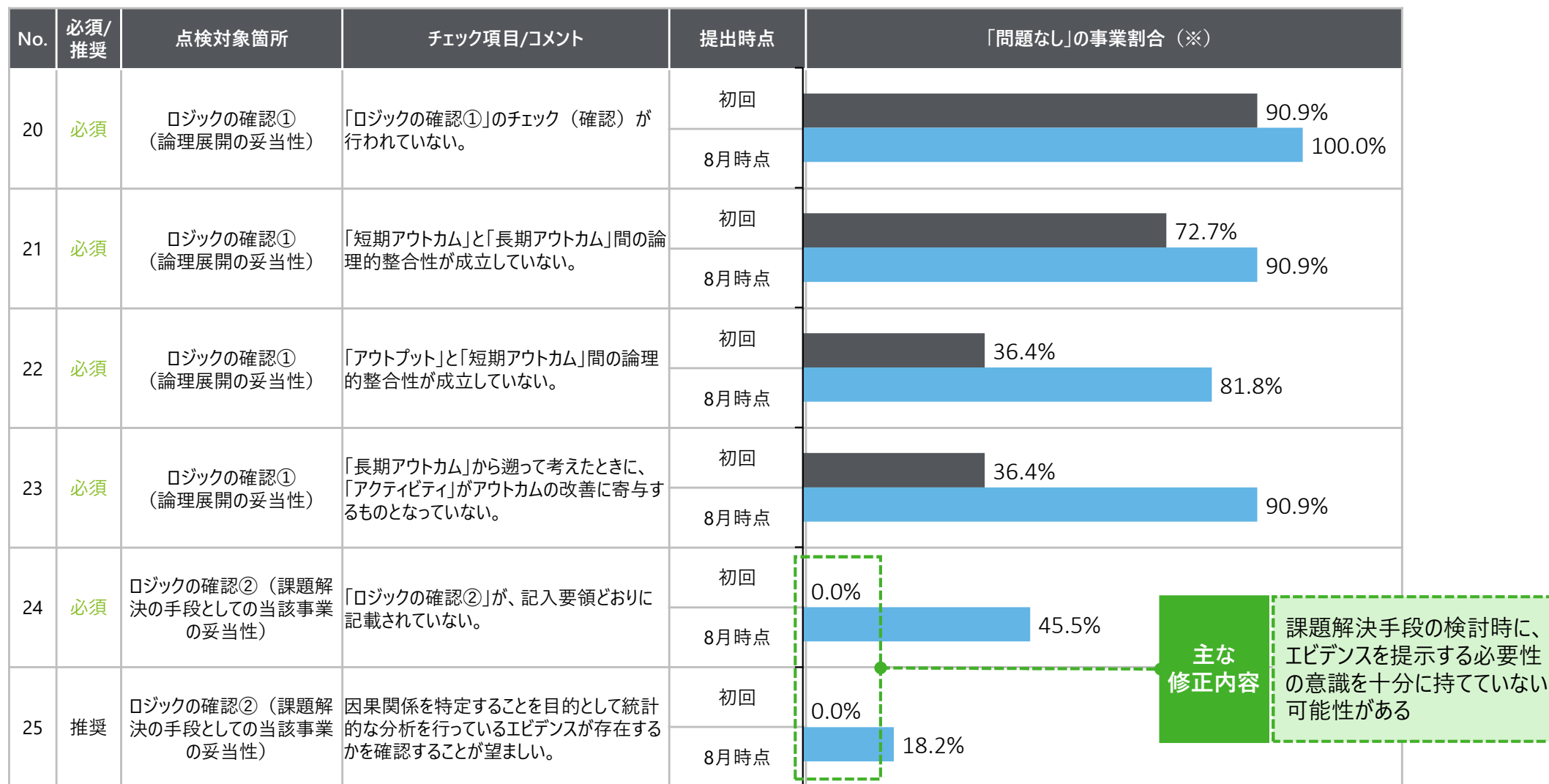
（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)

ロジックの確認①は、事務局の点検を経て、8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。ロジックの確認②については、エビデンスの不備が主な修正内容であった

各項目の点検結果④ ロジックの確認①・ロジックの確認②

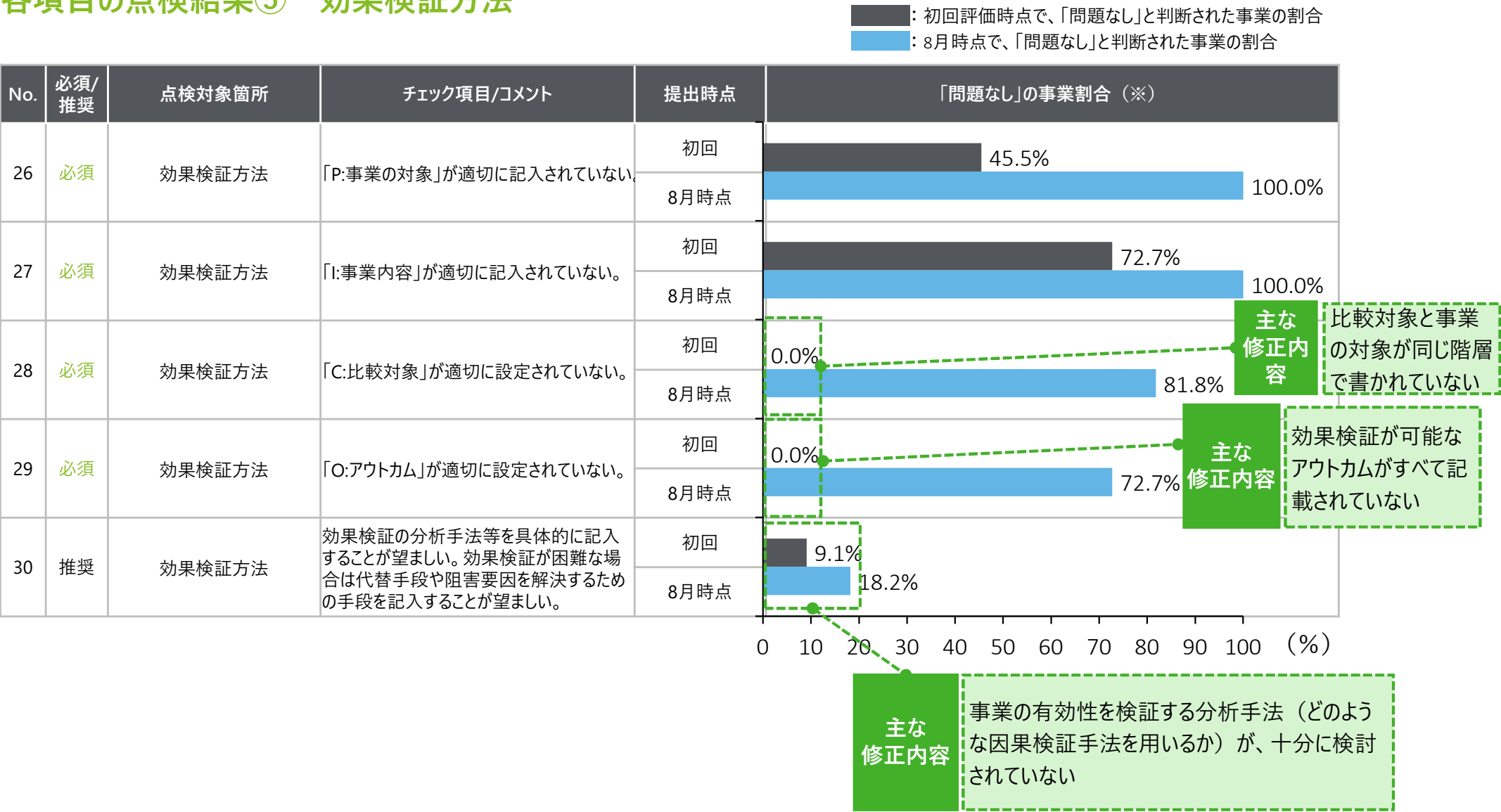
■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
■：8月時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

効果検証方法は、事務局の点検を経て、必須項目は7割以上が「問題なし」と判定できる
記載内容となった。分析手法は、十分に検討されていない事業が多く見受けられた

各項目の点検結果⑤ 効果検証方法



（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業